

令和8年度広島かきのへい死対策について

1 要旨・目的

5月26日に開催した「令和8年度第1回広島かきへい死に関する有識者会議」(以下「有識者会議」という。)において、へい死原因の暫定意見を取りまとめ、またその内容について説明会を開催し、生産者に説明した。

このへい死原因の暫定意見及び本年度に実施する広島かきのへい死対策について報告する。

2 有識者会議におけるかきへい死原因の暫定意見

- ・ かきは、水温が20℃以上の日が続くことや、身の重量が大きな成熟状態にあるほど、へい死リスクが高くなる。
- ・ 近年は環境変動により水温が20℃を超える日数が長期化している。
- ・ 産卵期(梅雨時期～夏季)の降雨は、水温や塩分を急激に変化させるため、産卵のきっかけの一つとなるが、令和7年度は梅雨時期の降水量が非常に少なく、かきは身の重量が大きな成熟状態にあった。
- ・ さらには、高塩分等によるストレスなどの複合的な要因に長期間さらされたことにより、例年より深刻なへい死が引き起こされたと推定された。
- ・ 西部地区においては貧酸素水塊の発生が確認されており、地域におけるへい死要因の一つとなった。

3 令和8年度へい死対策について

(1) 短期的な対策(モニタリング強化とその結果に基づく対応)

- ・ 県は、主要漁場(15地点)の観測センサーを拡充(塩分(地点:3⇒7)、溶存酸素(地点:0⇒5))することにより、漁場環境モニタリングを強化する。
- ・ また、生産者は、主要漁場(15地点)でかきの成育や成熟状態を調査する。
- ・ これらの結果に基づき、大量へい死のリスクが想定される場合は、水産プラットフォームを通じて、海域別に「へい死アラート」を発信する。
- ・ 生産者はアラート内容に基づき、筏の移動や水深操作等の対策を実施する。

(2) 中長期的な対策(養殖方法の改善等に向けた実証試験)

- ・ かき漁場の潮通しを良くするため、筏のかきを減らすことや、酸素が少ない底層水の影響を受けにくくするため、かきの垂下連を短くすること、また漁場の底質改善を目的とした海底耕うん、かき殻散布等、生産者の実証試験を支援することにより、養殖方法を見直していく。

○かき生産改善実証事業の要望状況(6/11現在)

実証試験	取組内容	取組地区数
① 筏の移動及び水深操作	筏の移動及び水深操作の時期検証	3
② 養殖密度改善	垂下連の削減、短縮による餌料環境改善	10
③ 底質改善	海底耕うん、かき殻散布	5
④ その他	干出による種苗強化	4
	三倍体種苗の高温耐性処理	4
	揚水ポンプによる海水攪拌	1

4 生産者説明会について

へい死対策の着実な実施に向けて、6月2日から6月11日にかけて、県内6箇所において、へい死要因の暫定意見やアラート発信時の対応、へい死を避けるため夏前にかきを太らせず、小さな痩せた状態（水かき）で夏越しをさせることなど、今年度の対策などについて説明した。

○説明会実施状況（6/11 現在）

地区	日時	場所	参加人数
東広島・竹原	6月2日	東広島市安芸津支所	31
呉	6月3日	県立水産海洋技術センター	25
江田島	6月4日	江田島市大柿市民センター	18
坂	6月9日	坂町漁業協同組合	14
広島	6月10日	広島市水産振興センター	28
廿日市・大竹	6月11日	廿日市市役所大野支所	17

5 今後の予定

今年度実施するへい死対策及び生産者の実証試験については、8月、11月に実施予定の有識者会議において、その取組内容及び効果を検証し、令和9年3月に取りまとめる最終意見のへい死対策として検討する。